

音楽科の学習にあたって

1. はじめに

なぜ「音楽」を学ぶのか

人間は、自然界の様々な現象を理解し、それを応用していろいろな道具を作り上げてきました。それは私たちの生活をとても便利なものにしてくれました。どのような最先端の技術も、もとを正せばなぜだろうという自然への好奇心が原点と言えましょう。この好奇心が現在の文明を築く基になっているのです。

しかし、人間の素晴らしさは知識を利用してものを作るだけではありません。

自然の素晴らしさや美しさに感動するという感性を持ち合わせているのです。また、自分の心の内面を人に伝えて喜びや感動を共にしたいという気持ちを持っています。それらの力が基になって偉大な芸術や文化を創造してきたのです。

広島桜が丘高等学校が掲げる【Challenge&Change】

たくさんすることに挑戦し、新たな自分を発見できるよう、幅広い知識と豊かな感性を磨くことが大切です。努力することを諦めたり、自分の可能性を低く決め付けたりしてしまうと、人間として偏った人格になってしまうでしょう。その感性を身につける教科として芸術があります。そのうちの一つが音楽です。

音楽Ⅰは中学校からの積み重ねの上に、また、音楽Ⅱは音楽Ⅰの積み重ねの上に、高校生にとってこれだけは知っていてほしいという学習内容から成り立っています。生涯学習の観点からも表現（歌唱、器楽、創作）と鑑賞を偏らず相互の関連を図りながら幅広く学びます。音楽表現Ⅰ・Ⅱでは、専門知識や演奏技術をさらに深く学んでいきます。

このように、音楽は感性を育み心豊かな人間になってもらうための科目です。

2. 学習内容

表現分野

- ・歌唱—斉唱や混声合唱を通して、歌唱の楽しさや素晴らしさを学びましょう。
- ・器楽—中学校の器楽活動を基礎とし、器楽活動を楽しみましょう。
- ・創作—創作、アンサンブル活動を通して、幅広い音楽活動を行います。

鑑賞

中世の音楽、バロック音楽、古典派の音楽、ロマン派の音楽、近代の音楽、現代の音楽から、それぞれの時代の特徴的な作品を選んで鑑賞し、西洋音楽史についての理解を深めます。また、我が国の伝統音楽、郷土の伝統音楽や世界の諸民族についても鑑賞します。

3. 学習する上での留意点

「授業に積極的に参加する」というのが大前提です。

今までの音楽経験には個人差があります。しかし、いかに良い声を持っていても、そのままでは自分の声を生かすことはできません。積極的に声を出すことで初めて周りにその声が聞こえるのです。音楽は「音」ありきです。

積極的に自分をアピールし、授業に参加しましょう。

もちろん、授業に必要な道具を持ってこることや、学習プリントにもしっかり取り組みましょう。

4. 評価の視点、試験について

歌唱、器楽演奏、グループ創作発表等の実技試験を行います。

それぞれの試験の点数に観点別評価（日々の授業への参加状況、課題、提出物、忘れ物等）を加えて評価します。どれほど素質を持っていても、何より授業に集中して積極的に参加することが大事です。